

労働災害の約8割は、停車時に発生

停車中の危険は、すぐ側に

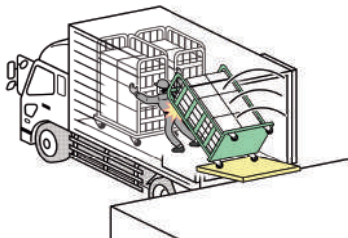
荷室内での作業中、転倒したカゴ車に挟まれた事故編

労働災害は、いつ発生するか分かりません。しかし、事前の対策によりその多くは防止できるでしょう。今回はカゴ車（ロールボックスパレット）の積み込み時に発生した事故事例および対策を紹介します。

災害例

荷物を積載したカゴ車が倒れてきて挟まれた

作業者は、トラックに約400kgの荷物を積載したカゴ車を積み込む作業を行っていた。その際、荷受け口と荷台の間にあった約10cmの段差を解消するため、その間に木製の板（コンパネ）を渡していた。コンパネからトラックの荷台に載せる際、カゴ車を強く引いたところ傾いてしまい、倒れてきて背中に当たり、先に載せていたカゴ車との間に挟まれた。



原因

- 荷受け口とトラックの荷台に高低差があった。
- カゴ車の進行方向にいたまま、カゴ車を強く引いた。
- コンパネを用いた作業の安全性について、十分検討がなされていなかった。

対策

- 段差の有無を把握し、安全に積み込み作業ができるよう設備的な対策を講じる。
- 荷主企業と安全作業連絡書を取り交わすなど、安全対策について連携を図る。
- 重量物を積み込む際は、複数人で作業を行わせる。

カゴ車に起因する災害パターンの4割は「下敷き事故」

カゴ車はロールボックスパレットとも呼ばれ、物流の効率化や作業者の負担軽減に貢献するとても便利なものです。しかし、労働災害も多数発生しており、その災害パターンとして「下敷き事故」が約4割を占めています。またケガをした半数近くの方が作業経験1年未満だったことから、作業に不慣れな時期での対策がカギとなります。カゴ車の基本的な作業方法を改めて確認し、安全作業に努めてください。

カゴ台車に起因する災害パターン

